

の測定を試みる。その後、観測地を増やして鹿児島県の桜島降灰量データと比較する。

- 火山灰の成分以外がほこりセンサの反応に与える影響を、実験を通して明らかにする。
- ほこりセンサを用いた降灰濃度測定器の開発を行う。

## 文 献

- (1) 鹿児島県：鹿児島島の火山 防災ガイド BOOK，桜島大正大噴火100周年事業実行委員会，(2013)。
- (2) 鹿児島県 危機管理防災局危機管理課「桜島降灰量観測結果」<http://www.pref.kagoshima.jp/aj01/bosai/sonae/sakurajima/sakurajimakouhairyou2.html> (2024年4月2日閲覧)
- (3) 安田成夫，梶尾義雄，國友 優：京都大学防災研究所年報，**55B**(2012)，1-8。
- (4) 野尻湖火山灰グループ：新版 火山灰分析の手引き，地学団体研究会，(2001)，2-32。  
(2023年5月29日受理)[doi:10.2320/materia.63.417]  
(連絡先：〒899-4332 霧島市国分中央 2-8-1)



### ～美しい金属の写真～

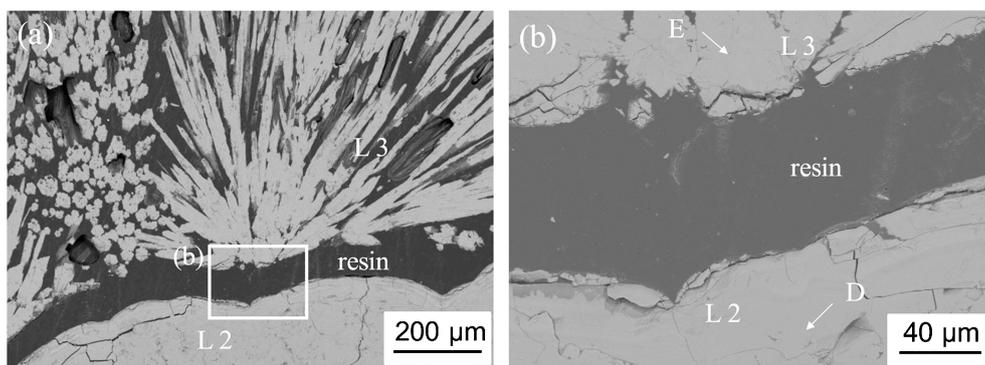


Fig. 7 Backscattered electron image at L2 and L3 layers (a) shown in Fig. 3 and magnified image of their interface (b). Analysis points of D and E are indicated in (b).

<A Model of Scale Formation on Inner Carbon Steel Pipe Walls for Transporting Hot Spring Water :  
Motoaki Morita and Osamu Umezawa: Mater. Trans., **57** (2016), 1652-1659 より転載>